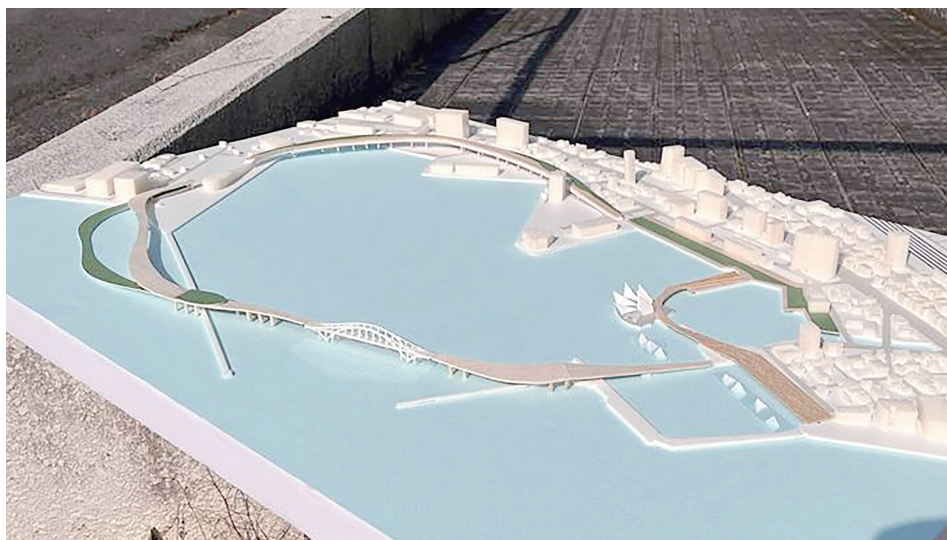




湾環の記憶

— 人々が紡ぐ物語 —

現代社会の大きな課題の一つは、人々の分断と地域のアイデンティティーの喪失である。都市の発展とともに空間が機能ごとに区分され、異なる人々の交流が生まれにくくなった。ここである意味、ここにいる意味に気づきにくくなりつつある。だがそれは、土地が歩んできた歴史や、いま隣にいる人や風景が教えてくれているはずなのだ。

西大分は古くから港町として栄えたが、近代化の中で街の形は変化を続け、いまは各エリアのつながりが失われた。観光地としての可能性がありながらも、人と人、地域と地域をつなぐ場が不足している現状がある。

そこで私たちは、西大分港を三つのブリッジ



松岡遼さん・田原奈々さん・柿本沙耶さん

で囲み、土地と海をつなぐことで、異なるエリアを一体化させる建築を提案する。この空間は「待つ・学ぶ・暮らす」などの多様な滞在機能を持ち、人々が自然に出会い、交流する場となる。

土地が語る歴史を受け継ぎ、新たな物語を紡ぐことで、西大分の持続可能な未来を描く。